



● 横浜商科大学 理事長・学長 清水雅彦 **ご挨拶とメッセージ**
—令和2年4月より、清水雅彦理事長が学長就任—

● 令和元年度 **学位記授与について**
—学位記授与式・卒業記念パーティーは中止に—

● 令和2年度より経営情報学科に「**スポーツマネジメントコース開設**」
—「情報マネジメントコース」との2コース制に—

● **新任教員紹介**

● **退職される先生方からのメッセージ**
—小林二三夫教授、高橋浩教授—

横浜商科大学 理事長・学長 清水雅彦

ご挨拶とメッセージ



先般の学長選考を経て、四月一日に新しく横浜商科大学の学長に就任しました清水雅彦です。二年前に理事長に就任しておりましたので、本学では異例なことかもしれませんが、理事長と学長を兼務することになりました。この度の学長就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本学は、開学以来、商業に関わる「商学」という学問を中心にした独自の総合教養教育体系を構築してきました。本学における「商学」は優れて実学的な学問です。しかし、「商学」は、決して無味乾燥な学問ではなく、自己利益を追求しながら人々と社会に多くの便益をもたらす学問です。その典型が、さまざまな商品を生仕入れて消費者に販売する小売業です。小売業は、商品に込められたさまざまな情報を消費者に頒布する役割を担っています。いわば小売業は商品に込められた情報の交換と流通を担っているのです。小売業による新しい商品の発掘は、人々に新しい便益、すなわち経済的幸福をもたらすことが期待され、これに反した小売業と商品は、市場から淘汰される

のが健全な市場経済の在り方です。これこそが「商学」という学問の神髄です。

現在、新型コロナウイルスの蔓延による社会の混乱に乗じ、市場への流通が不安定になっている商品があります。必要なところに必要なものが届かない、生命に係る重大な事態になっています。このような有事においても良識ある行動ができることこそが、本学が教える「商学」であり、本学の教育の原点なのです。

私は、理事長・学長として先頭に立ち、本学の教育環境を支え、未来に向けて発展させるべく、経営面、教学面の両側面からでき得る限りの改革を押し進め、学生の教育支援を行う所存です。



令和元年度 学位記授与について

令和二年三月十四日に挙行を予定しておりましたが「令和元年度 第五〇回学位記授与式」及び「学位記(卒業証書)授与」については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、誠に残念ながら開催をすることができませんでした。

商学部 商学科 一三三名

観光マネジメント学科 六十五名(うち貿易・観光学科一名)

経営情報学科 三十一名

の合計二二九名が本学を巣立ち、社会人としての一步を踏み出しました。

学位記は郵送での授与となりましたが、本学の建学の精神である「安んじて事を托さるる人となれ」を实践し、信頼される人となつてほしいという卒業生へのメッセージが込められた小林雅人学長の「式辞」が添えられました。

なお、同年度における学科別の学業成績最優秀者に学術賞、顕著なスポーツ活動をした者にスポーツ賞ならびに特別賞を授与。表彰者は左記の通りです。

学長賞授与者一覧

学術賞

商学科

中村 朱里

観光マネジメント学科

上田 和輝

経営情報学科

山本 一瑛

スポーツ賞

商学科

菊池 元貴

(第六十五回、第六十七回 全日本学生剣道選手権大会出場)

商学科

嘉門 裕介

(二〇一九ワールドボート・トーナメント・ベースボール大会出場)

特別賞

経営情報学科

村上 航暉

(第十四回 神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞受賞)

学術賞



中村 朱里



上田 和輝



山本 一瑛

スポーツ賞



菊池 元貴



嘉門 裕介

特別賞



村上 航暉

令和元年度「松本武雄賞」受賞者決定

「松本武雄賞」は、学生の研究意欲の向上を図るために、学生から学術論文を募集、審査のうえで表彰を行う制度で、横浜商科大学学術研究会が主催しています。

学術委員会による審査の結果、令和元年度 第三十八回「松本武雄賞」受賞者ならびに受賞論文を左記の通り決定しました。

松本武雄賞入賞者表彰

第一席 該当論文なし

第二席 該当論文なし

第三席 該当論文なし

佳作 安住 宙剛 (適合賞格セシ)

佳作 中村 朱里 (適合賞格セシ)
「新技術研究取り組み発表が企業に与える影響の分析」
「新世代情報技術5Gに関するイベントスタディを用いた分析」

佳作 前田 海渡 (柳田義徳セシ)

「消費者行動に基づく広告の分類とそれらに適した商品分類に関する一考察」
「組織内におけるオンラインコミュニケーションツールの活用有効性」

佳作



安住 宙剛



中村 朱里



前田 海渡

経営情報学科に「スポーツマネジメントコース」開設 「情報マネジメントコース」との二コース制に―



経営情報学科は本年四月、「スポーツ」と「情報」を切り口に経営的視点を磨き、ビジネスを創造・成長させる力を養う二つのコースを開設しました。

スポーツマネジメントコースは、スポーツ・健康産業に焦点を当て、その価値や魅力、関連するビジネスの可能性を学ぶことで、経済社会、地域社会の発展に貢献する人材を育てるコースです。プロスポーツチームと連携したプログラムもあり、実践的な知識やスキルを磨きます。



例えば、地元のスタジアムで開催するスポーツイベントにより多くの観客を動員できれば、チケットの収益だけでなく、販売店や飲食店、交通機関、宿泊施設、観光施設などでの収益も期待できます。このように「スポーツ」と「商学・経営学・経済学」といっ



た専門分野を関連付けて学び、スポーツビジネスはもちろん、多様な業界で活躍できる人材を育てます。

情報マネジメントコースは、急速に発展するICT、AI、データサイ

エンスといった最新知識と企業活動との関連を学び、これからの時代の経営やマーケティングについて考える力を磨きます。実際にアプリ開発などを体験する授業もあり、未来に向けて一歩先んじた商品開発や企業経営を実現できる人材を育てます。



令和元年度 新任教員紹介

令和元年度、本学に着任された
先生方をご紹介します。

※以下五十音順です。役職等は令和元年度入職時のものを記載しています。



石橋 嘉一 准教授

研究分野: コミュニケーション学、
教育工学



榎本 真俊 講師

研究分野: 通信技術、セキュリティ、
ソフトウェア開発及び検証



大島 研介 講師

研究分野: 実験心理学、教育心理学、
特別支援教育



大西 純 教授

研究分野: グローバルビジネス、
異文化マネジメント、組織論



金子 真奈美 特任講師

研究分野: 英語翻訳、英国児童文学



小島 敏明 特任教授

研究分野: 経営学、マーケティング、
地域活性化



白須 洋子 特任講師

研究分野: 英語教育、異文化理解、
茶道



高津 勝 特任教授

研究分野: 財務会計論、会計監査論



高橋 篤史 特任准教授

研究分野: インターネット、起業



中村 宣博 講師

研究分野: 健康科学、スポーツ科学、
生理学、運動生理学



永野 智久 准教授

研究分野: スポーツ科学、
スポーツアナリティクス



羽田 功 教授

研究分野: 歴史(特にユダヤ人問題)、
民族学、文学・思想、教養教育



本多 正敏 特任講師

研究分野: 英語学(生成統語論)



村林 裕 教授

研究分野: スポーツマネジメント

高齢社会の理解と地域密着の教育を目指しました

小林 二三夫

ビジネスの世界から二〇〇七年に本学に奉職し二〇二〇年三月に退職します。長らく流通業で海外業務を担当していた関係で研究論文、学位論文、著書は、マーケティング・海外調達・国際輸送・国内での販売までの実務を踏まえた分野です。講義もこの関係科目です。

本学では、講義以外に地域産業研究所に長らく携わりました。地産研では、地域企業・行政との連携の中で高齢社会への対応に力を入れました。研究成果を「高齢社会のマーケティング」の講義として学生に還元しました。高齢者の消費が二〇〇兆円を超える中で、どのような分野で仕事をして高齢社会の理解は必須という前提での講義です。また、実務の現場と理論を組み合わせることで立体的にイメージができると考え、「小売実務実習」と「貿易実務実習」の講義で各社に出向き現場で学ぶようにしました。

本学の強さは、商学に特化した地域密着性にあり、建学の精神で述べているようにビジネスの現場を支える、いぶし銀のような人材が育成できたらと考えて十三年間、教育をして参りました。



小林 二三夫 研究分野:国際マーケティング、流通

【経歴】 神奈川大学経済学部貿易学科・明治大学法学部法律学科卒業／スペイン・マドリード大学文学部外国人コース卒業／日本大学大学院総合社会情報研究科博士後期課程修了、博士(総合社会文化)／株式会社イトーヨーカ堂海外部責任者、資金証券部責任者、兼務で金融子会社等の役員を経て2007年より本学教授。城西大学大学院兼任講師、ピッツバーグ大学ブラッドフォード校客員教授を歴任。

Profile

高橋 浩 研究分野:教育学

【経歴】 中央大学文学部哲学科教育学専修卒業、学士(哲学)/国際基督教大学教育学研究科教育原理専攻博士前期課程修了、修士(教育学)・博士後期課程単位取得満期退学/1988年鹿児島女子大学専任講師/1991年鹿児島女子大学助教授/1999年志学館大学教授/2003年より本学教授。

Profile

教職員の「エンパワメント」を重視した大学運営を

高橋 浩

平成十五年四月に本学に着任してから今日まで職務を全うできたことは、多くの先生方及び職員の方々に支えていただいたおかげであり、感謝するのみである。

私の専門は教育学であるが、職務の中心は教職課程の運営であった。その後学生生活部長及び入試管理委員長の職務や学生相談室の運営にも関わってきた。本学での仕事を振り返ってみると、教職員間のコミュニケーションと組織成員の合意形成が重要であることを痛感している。私にとって幸いだったことは、上司である小林学長が私の業務状況を理解し、また私の率直な意見を十分に傾聴して下さったことである。

近年「エンパワメント」という言葉が組織活動の改善に不可欠であることが認識されてきているが、教育学とりわけ「学校経営学」の分野でも注目されており、一人ひとりの教職員が改革の理念を共有しつつ、職務に対する関与可能性を確信して自信と自己効力感をもって学校改革に関与していく重要性が指摘されている。

退職にあたり本

学の新執行部の方々に望むことは、教職員の「エンパワメント」を重視した大学運営を実現していくて欲しいということである。



01 硬式野球部

神奈川大学野球連盟秋季リーグ戦で準優勝

本学硬式野球部は、神奈川大学野球連盟秋季リーグ戦において七勝五敗（勝ち点三）で準優勝。十月二十八日に横浜スタジアムにて開催された「関東地区大学野球選手権大会」への三年ぶり七度目の出場を果たしました。

善戦むなしく、初戦で武蔵大学に敗れたものの、商大ナインの躍動する姿は次シーズンに期待をつなぐものでした。

秋季リーグ戦における、本学の表彰選手は左記の通りです。

ベストナイン投手 藤村 哲之

（商学部三年 愛知工業大学名電高等学校出身）

ベストナイン三塁手 古川 卓人

（商学部四年 明德義塾高等学校出身）

フレッシュマン賞 鷺田 亮太

（商学部一年 八王子実践高等学校出身）



02

本学卒業生の井川寛之さんが「東京オリンピック」日本代表選手に内定！

本学卒業生の井川寛之さん（商学部商学科二〇二四年九月卒業）が十二月二十日（水）に開催された日本クレー射撃協会理事会で、東京オリンピックの代表に選出されました。

井川選手は、カタール・ドーハで開催された「第十四回アジア大陸射撃選手権大会」に出場し、日本選手の最高順位で東京オリンピック代表として内定。井川選手からは「アジア選手権は、オリンピック予選最後の大会という事で緊張もありましたが、集中してプレーできました。東京オリンピックも精一杯頑張りますので応援よろしく願います。」とコメントをいただきました。



Facebook
だより

本学では最新情報を、
Facebookページで発信しております

03

城南信用金庫と「産学連携協力に関する協定」及び「包括的連携に関する協定」を締結

十二月三日、城南信用金庫（本店 品川区西五反田 理事長 川本恭治）と本学の間で「産学連携協力に関する協定」及び「包括的連携に関する協定」を締結しました。

「産学連携協力に関する協定」は地域経済の発展の実現や地域社会に貢献できる人材の育成など地域社会に根差した協定となっています。また、「包括的連携に関する協定」は城南信用金庫が代表を務める「よい仕事おこしフェア実行委員会」との間で、双方が持つネットワークを活用し、地域の枠を超えた横断的なビジネスマッチングによる中小企業支援などに貢献していく予定です。



04

神奈川産学チャレンジプログラムで内田ゼミ 北村チームが優秀賞を受賞

一般財団法人神奈川経済同友会が主催する「第十六回神奈川産学チャレンジプログラム」の表彰式が十二月十七日（火）にパシフィコ横浜にて行われ、本学内田ゼミの北村チームが優秀賞を受賞しました。

北村チームは、相鉄ホールディングス株式会社から提示された課題「地域の人々に喜ばれる施設運営について」魅力的なイベントづくり」に対し、バブルサッカー等のスポーツイベントを通じて家族×スポーツ×安全の連携を深めていくというプロジェクトを提案。八つの審査項目のうち、特にプレゼン力の高さを評価され、見事優秀賞に選ばれました。



横浜商科大学 2018年度決算および2019年度予算

事業活動収支計算書

(単位:千円)

			2018年度 決算	2019年度 予算
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	1,318,700	1,368,320
		手数料	37,863	27,200
		寄付金	27,405	5,500
		経常費等補助金	174,978	180,200
		付随事業収入	67,715	46,780
		雑収入	111,326	8,100
		教育活動収入計	1,737,988	1,636,100
	支出	人件費	894,070	811,981
		教育研究経費	600,698	582,120
		管理経費	262,517	196,339
教育活動支出計		1,757,285	1,590,440	
教育活動収支差額		△ 19,297	45,660	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	14,427	10,000
		教育活動外収入計	14,427	10,000
	支出	借入金等利息	4,687	4,205
		教育活動外支出計	4,687	4,205
	教育活動外収支差額		9,740	5,795
経常収支差額		△ 9,557	51,455	
特別収支	収入	資産売却差額	6,244	0
		その他の特別収入	10,655	0
		特別収入計	16,899	0
	支出	資産 処分差額	700,585	12,000
		その他の特別支出	68,483	0
		特別支出計	769,068	12,000
	特別収支差額		△ 752,169	△ 12,000
〔予 備 費〕			7,000	
基本金組入前当年度収支差額		761,727	32,455	
基本金組入額合計		150,000	△ 79,883	
当年度収支差額		911,727	△ 47,428	
前年度繰越収支差額		△ 2,464,223	△ 1,151,145	
基本金取崩額		2,211,959	50,000	
翌年度繰越収支差額		1,163,990	△ 1,148,573	
(参考)				
事業活動収入計		1,769,314	1,646,100	
事業活動支出計		2,531,040	1,613,645	

資金収支計算書

(単位:千円)

	2018年度 決算	2019年度 予算
収入の部		
学生生徒等納付金収入	1,318,700	1,368,320
手数料収入	37,863	27,200
寄付金収入	28,788	5,000
補助金収入	179,012	180,200
資産売却収入	978,532	100,000
付随事業・収益事業収入	67,715	46,780
受取利息・配当金収入	14,428	10,000
雑収入	111,935	8,100
前受金収入	520,894	474,000
その他の収入	891,939	681,000
資金収入調整勘定	△ 677,186	△ 614,400
前年度繰越支払資金	1,081,579	1,489,591
収入の部 合計	4,554,199	3,775,791
支出の部		
人件費支出	905,190	811,981
教育研究経費支出	503,741	495,895
管理経費支出	213,561	180,810
借入金等利息支出	4,687	4,205
借入金等返済支出	360,426	54,916
施設関係支出	67,262	31,000
設備関係支出	19,569	51,623
資産運用支出	936,527	541,000
その他の支出	476,977	523,000
資金支出調整勘定	△ 211,335	△ 153,000
〔予備費〕		7,000
翌年度繰越支払資金	1,277,594	1,227,361
支出の部 合計	4,554,199	3,775,791

2019年3月31日現在

資産の部		負債及び純資産の部	
固定資産	10,381,717	固定負債	1,138,764
流動資産	1,394,840	流動負債	830,781
		基本金	10,971,002
		繰越収支差額	△ 1,163,990
資産の部合計	11,776,557	負債及び純資産の部合計	11,776,557

編集後記

- 横浜商科大学報も第90号。学生の活動や先生方の研究、そして本学の取組を伝える貴重な場として発行してきました。紙媒体からデジタル版での制作となって5年経過しましたが、掲載記事を並べ、写真に写る学生や先生方の表情を見比べながら悩み、意見を交わしながら作成を進めることや、ご覧いただく方楽しんでいただきたいという思いは変わりません。新型コロナウイルス感染拡大の中、在宅勤務中心に作成した今号ですが、横浜商科大学の「今」が伝われば幸甚です。(T)
- 多くの先生方に支えていただきながら大学報の編集に関わり、気付けばもう5年になります。5年前、大学報は紙媒体からWEBに移行、広報課スタッフ中心に編集を行うようになるなど、大学報も少しずつ変わってまいりました。大学報の制作に関わる中で、教育現場に立つ先生方、活躍する学生たちの思いを振り返り、懐かしく感じる毎年の今頃。多くのことが移り変わる中で至らぬ点もあるかと思いますが、これからも沢山の思いを発信していけるよう職務を全うしていきます。(K)